

# 令和3年度 金沢区 幼保小教育交流事業活動報告

金沢区テーマ  
園生活から小学校生活へ  
子どもたちの育ちと学びをつなぐ支援を目指して

金沢区実行委員会

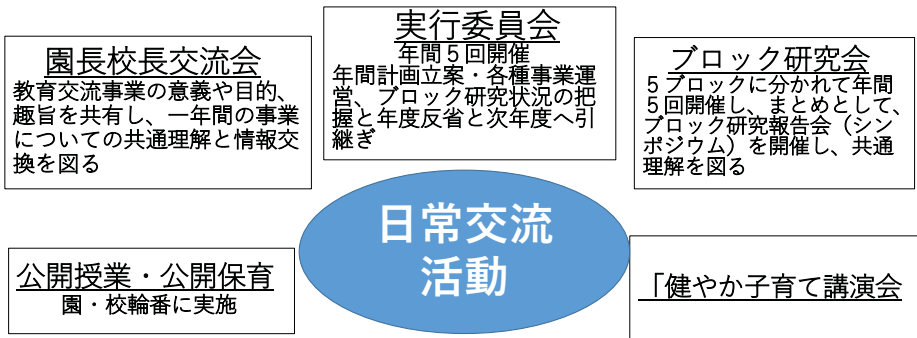
# 金沢区

横浜市内で唯一の自然海岸が残る野島公園のほか、海の公園、八景島、金沢区自然公園など、海・山両方の豊かな自然に恵まれています。

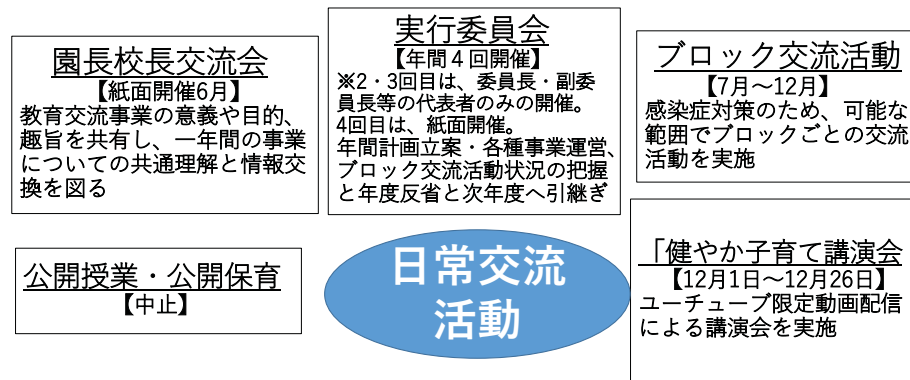
また、鎌倉文化を現代に伝える県立金沢文庫、称名寺に代表される歴史的・文化的資産や名称・旧跡が多く残っています。

交流事業対象	幼稚園・保育園・小学校	計74園・校
○幼稚園	11園	さらに、5ブロックに分けて ブロック毎に交流を実施しています。
○保育園	38園	
○認定こども園	2園	
○小学校	23校	

## 【参考】1年間の活動（コロナ禍前の例）



## 令和3年度の年間活動報告（感染症対策を伴った活動を実施）



## 実行委員会の活動

第1回 実行委員会 令和3年5月18日（富岡小学校） 実行委員 14名出席

金沢区幼保小教育交流事業の運営方針、実行委員会組織、事業計画、事業予算、今後の実行委員会の持ち方などについて

第2回 実行委員会 令和3年9月27日（小田小学校） 委員長・副委員長・動画担当 4名出席

健やか子育て講演会の内容検討

第3回 実行委員会 令和4年1月19日（小田小学校） 委員長・副委員長・会計担当 4名出席

今年度のまとめ、事業予算、次年度へ向けて

第4回 実行委員会 令和4年2月 紙面開催

事業報告、事業決算、次年度へ向けての確認

## ブロック交流活動

ブロックごとに交流活動（7月～12月） ブロックごとに可能な範囲で交流活動を実施

### 【各ブロックの交流活動の内容】

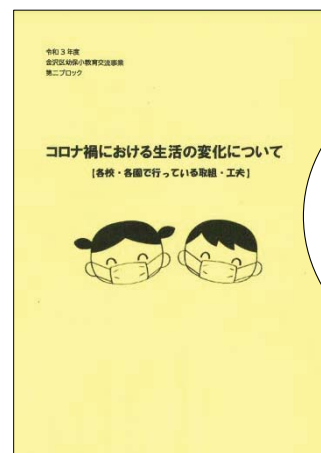
- ブロック内の交流会は行わず、紙面による冊子の配布を行った。
- ブロック内の交流会では、担当者の顔合わせをし、「コロナ禍における生活の変化について～各園・校で行っている取組・工夫～」をテーマに情報交換を行った。
- ブロック内の担当者が集まり、「新型コロナウイルスの感染拡大防止対策下で気づいたこと」をテーマに研究会を行った。
- ブロック内の担当者会を、園・学校の取組紹介、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した園・学校生活についての情報交換、今後の取組や交流活動を話題に実施した。
- 園児・児童の交流に活用するために、金沢区内の全ての幼保小へ絵本（4才から小学校低学年向け）を配付。

## ブロック交流活動

### 【成果と課題】

- 各幼保小の情報提供によりそれぞれの園について知ることができた。情報量のバラツキがあったのが今後の課題。
- 集合での交流は1回だけであったが、冊子を作成したことでそれに代わる交流ができたと思う。
- 乳児・幼児・児童の年齢の違いによるそれぞれの課題なども分かち合えて、有意義な研究会となった。
- 今後も感染症の影は消えないとなると、オンライン等での意見交換等など、できることをブロックで知恵を出し合って考えていく必要がある。
- できる範囲での交流ということで工夫して実施した学校があった。ブロックの担当者会を開き、顔見知りになったことでより連絡をしやすくなった。職員間でテーマに基づいた共通理解や話し合いをする時間が取れなかったのが残念である。近隣の小グループでの職員間の交流の機会をオンラインなどを活用し複数回取れると交流が深まると思う。

## ブロック交流活動



各幼稚園・保育園・小学校の様子やコロナ禍での工夫などを冊子に取りまとめて、配付しているブロックもありました。



## 健やか子育て講演会

ユーチューブ限定動画配信（12月1日～12月26日）による講演会を実施  
※ 金沢区内の幼保小の保護者及び教職員を対象

### 【講演会の内容】

○テーマ 「泣いて笑って子どもと育つ」 ～自分のためのアンガーマネジメント～

○講師の先生 大森 由紀 先生  
臨床心理士、公認心理師、子育て教育相談員  
(一社)アンガーマネジメントジャパン認定 実践リーダー

○内容 小さな子どもはそれだけでかわいい、育っていく姿をみるのはうれしい。けれど毎日の生活の中では、楽しいばかりではいられないのも事実である。子育ての中でおこるさまざまなイライラなどを素材とし、心のモヤモヤを小さくして、よりよいコミュニケーションへつないでいく方法の一つであるアンガーマネジメントについて、経験豊富な臨床心理士の方をお招きし、分かりやすくいねいに講演をしていただいた。

## 健やか子育て講演会

【講演会を視聴しての感想】 視聴人数：452

○家庭では、普段一人で子どもといふ事が多いので、どうしても自分の思い通りにさせようと意地になり、家事が進まないといライラしてしまう。その場を少し離れて自分の気持ちを落ち着かせたり、子どもの気持ちを考えるようにしたい。

○子どもの気持ちに寄り添って育児・保育することを再認識した。

○アンガーマネジメントとは、怒らないようにするのではなく怒ったりイライラしたりする自分に気付いて、その気持ちを誰かに話したり自分なりにケアしたりして行動を変えていけることが分かった。

○まあ、いいかと許せる心の余裕を作るためにも日頃のガス抜きが大切だと分かった。

○保育の現場でもプライベートでも、余裕がなくなってしまうとつい目先のことで判断し行動してしまうが、その奥にある理由や気持ちに目を向ける大切さを改めて感じた。

## 令和3年度の教育交流事業をふりかえって

### 【成果】

○コロナ禍の中であったが、ブロックごとに工夫し可能な範囲で交流活動したことは意味があり、その交流を次年度にもつなげていくことができると考える。

○コロナ禍の中での園・校での工夫した取組を共有したことで、幼保小接続（生活と学び）を考える上で、参考にすることができた。

○健やか子育て講演会は、限定動画配信を活用したことで、多くの保護者や教職員が視聴し、子育てのヒントをつかむことができた。

### 【課題・次年度へ向けて】

○コロナ禍前のような、一年間を通しての様々な交流事業を実施することが難しく残念だった。（多数意見）

○次年度は、対面による交流が難しい場合、オンラインを取り入れるなど、工夫した交流を検討することが必要。